



授業づくりの視点

身近な人々や社会、自然と繰り返し関わり、試行錯誤をする中で、事象を注意深く見つめたり、予想を確かめたりする学び方を身に付けるようにしましょう。

体験した活動を振り返り、言葉や絵等で表現し伝え合うことで、無自覚で行った活動のよさや活動への思いを自覚できるようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 「みんなのにこにこ だいさくせん」【第1学年】

家庭での自分の生活や家族の思いに目を向け、自分や家族が笑顔で過ごせるためには、どのようなことができるかを考え、計画を立てて実行することを通して、自分の役割や成長に気付く単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び 技能の基礎

家庭での家族や自分の「にこにこ」が、自分の生活と深く関係していることに気付き、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割が増えたことが分かる。

思考力、判断力、 表現力等の基礎

家庭での「にこにこ」を増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現する。

学びに向かう力、 人間性等

家庭での自分の生活や家族への思いに関心を持ち、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりする等、支えてくれている家族に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとする。

3 単元のデザイン 全9時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
自分が「にこにこ」する時を見付け、単元の見通しをもつ	◎自分が「にこにこ」するのはどんな時か考え、気付く。 ・楽しい時に、にこにこするよ。 ・この前の誕生日の時に、にこにこしてたよ。 ・お兄ちゃんと遊んだ時に、にこにこするよ。
家族が「にこにこ」する時を思い出し、自分でできる取組を考え「にこにこ大作戦」を実行する 本時	◎家族が「にこにこ」するのはどんな時か考え、自分でできる取組を考え実行する。 ・洗濯物をたたむのを手伝えそうだ。 ・妹と仲良く遊ぶことができるよ。 ◎実行した取組をまとめ、発表し、再度取組を考え実行する。 ・私は、お父さんの腰トントンをしました（右図）。誰か、お父さん役をお願いします。こんな感じ（実演）でした。 
まとめの発表会を開き、単元を通じた取組を振り返り、まとめる	◎再度発表会を行い「にこにこ大作戦」の取組を振り返りまとめる。 ・お母さん（家族）の役に立つのでこれからも洗濯物をたたむことを続けたい。 ・自分も「にこにこ」になったし、家族も「にこにこ」になったので違うこともやってみたい。

◎本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

◎伝え合う活動の中で、様々な方法（絵、言葉、動作）を用いて表現させることで、自らの学びや成長に気付くようにする。

対話的な学び

◎発表を繰り返し行うことで、無自覚だった自分や友達の取組のよさに気付くことができるようにする。

深い学び

◎活動を繰り返すことで、「役に立ってうれしい」ことに気付かせ、できることが増えた自分の成長について考えるようにする。

本時のねらい

「にこにこ大作戦」を実行して分かったことや気付いたことを伝える取組を通して、家族をもっと「にこにこ」させるためにできることを考え、もう一度計画を立てる。

本時の流れ

本時のめあてをつかむ

めあて

「にこにこ大作戦」でしたことを紹介しよう

「にこにこ大作戦」の取組をみんなに紹介する

紹介を通して感じたことをまとめる

まとめ

みんながしているいろいろな取組は家族の役に立っている

本時の学習を振り返り「にこにこ大作戦パート2」を計画する

児童の学びの姿

◎これまでの取組から本時の活動を考える。

- ・家族が「にこにこ」するための取組を考えて実行してきた。
- ・「にこにこ大作戦」でしたことを紹介したい。

◎自分の取組をまとめて、クラスで発表する。

- ・私は、晩ご飯づくりのお手伝いをしました。(実演しながら)こんな風に野菜を切りました。お母さんから、「手伝ってくれてありがとう、これからもよろしくね」と言ってもらいました。



◎みんなの発表や黒板に貼られたシートから気付いたことを相互に発表する。

- ・晩ご飯のお手伝いで、キュウリやキャベツなどの野菜を切れるようになったよ。
- ・私のしたお手伝いは家族の役に立っている。

◎継続したり、新たに挑戦したりすることを考える。

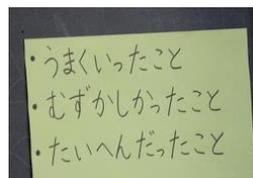
- ・今度は、違うお手伝いをしたいです。理由はお母さんの役に立ちたいからです。

教師の手だて

- 前時までの取組をまとめた掲示物を1枚ずつ示し、「どんなことを勉強してきたかな」と尋ね、確認しながら、「今日はどんな勉強をしたい」と問い、本時の活動を考えさせる。

主体的な学びの手だて
対話的な学びの手だて

自分の取組を言葉だけではなく、絵や動作を用いて表させる。この時、「うまかったこと」「たいへんだったこと」等の気付きを深める質問項目を掲示し、その掲示を活用して、児童相互に質問をさせることで、自分や友達の取組のよさに気付くやすくする。



【質問の掲示物の例】

深い学びの手だて

児童の発表後「なぜ、家族が「にこにこ」になったのでしょうか」と問い直すことで、自分にできることが増えたことや家族の役に立つ事ができたという、気付きを促す。

- 児童の役割や成長に関する気付きを促すために、「にこにこ」にするための取組を繰り返し行わせる。その際、挑戦したい取組の思いや願いを理由を付けて発表させる。

Point

前時までの学習の想起

前時までの学習内容を想起させるために、学習した具体的な取組を順に示す等の支援を行いましょう。また、本時の活動を主体的に考えるような支援を行いましょう。

Point

多様な方法で表現

自分の取組を絵や言葉、動作等の多様な方法で表現し、教師や友達から質問し、フィードバックを得ることで、児童が取組のよさに気付くようにしましょう。

Point

気付きを促す振り返り

振り返りでは、取組に関する思い等の理由を付けて発表することで、取組のよさへの気付きを促しましょう。その際、同様な進め方での発表を繰り返すことを大切にしましょう。